

- ★ ふさおとめの生育は平年並み、ふさこがねの生育はやや早い
- ★ 幼穂形成期後は湛水管理に努めましょう

1 君津地域の生育概況

6月1日から平均気温は20℃前後となり、平年並み～やや低い気温となりました。気象庁によると今後2週間も気温が低いと予想されています。

関東甲信地方は、6月7日に梅雨入りしました。天候を見ながらほ場の水管理を行いましょう。各品種の幼穂形成期は、4月20日植えの「ふさおとめ」は6月11日頃、4月19日植えの「ふさこがね」は6月12日頃でした。4月20日植えの「コシヒカリ」は、6月22日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。「粒すけ」は、4月20日植えでは6月21日頃から、5月15日植えでは7月7日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。

現在の生育は、平年並みからやや早いで推移しています。早生品種はすでに幼穂形成期を迎えており、7月上旬には出穂期を迎えます。水が必要な時期になりますので、湛水管理を徹底し、高温対策に努めましょう。

2 生育調査ほの調査結果※

(ふさおとめ6月12日、ふさこがね6月12日、コシヒカリ及び粒すけ6月15日)

品種		田植え日	葉令 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	単葉 葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R8年	4/20	11.0	55.0	37.5	569.5	39.2
	過去平均値	4/19	10.8	56.3	35.5	554.6	42.5
	過去平均比	+1日	+0.2枚	98%	106%	103%	92%
ふさこがね (木更津市)	R8年	4/19	10.8	56.0	34.3	528.9	44.2
	過去平均値	4/20	10.6	50.5	26.6	403.6	43.5
	過去平均比	-1日	0.2枚	111%	129%	131%	102%
コシヒカリ (君津市)	R8年	4/25	10.0	52.0	36.2	539.4	38.9
粒すけ (君津市)	R8年	5/15	8.2	34.0	18.1	273.3	43.2

※過去平均値について

ふさおとめは令和3～7年の平均、ふさこがねは令和6～7年の平均です。コシヒカリ、粒すけは本年度から調査地点を変更しているため、本年のデータのみ記載となります。

※調査地点の植付密度の違いから、株当たり茎数と面積当たり茎数の間で、平年値との関係が異なる場合があります。過去平均値との生育差は、面積当たり茎数を優先して御参照ください。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。

連絡先 田中(電話)0438-23-0299 (メール) h.tnk151@pref.chiba.lg.jp

3 これからの管理のポイント

① 「コシヒカリ」「粒すけ」の幼穂形成期（出穂 25 日前・幼穂長 1mm）の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測	穂肥散布の目安
コシヒカリ	4月20日	6月22日頃	幼穂形成期7日～15日後頃の間
粒すけ	4月20日	6月21日頃	幼穂形成期から7日後頃
	5月15日	7月7日頃	

※穂肥の施肥量は窒素と加里を 10a 当たり成分量で各 3kg が目安になります。

※幼穂形成期の 10 日～15 日後までが冷害危険期になります。

② 幼穂形成期の目標生育量

近年、生育が過剰なほ場を中心に収穫期前の降雨や強風により倒伏するほ場がみられます。下の表を参考に生育量が目標を超えている場合は追肥時期をやや遅らせて、減肥しましょう。

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	55 以下	570～620 (31～34 本)		520～570 (29～31 本)
ふさこがね	60～65 以下	450～500 (25～27 本)		
コシヒカリ	70 以下	430～560 (23～30 本)		
粒すけ	65 以下	590 (32 本)	550 (30 本)	

※茎数の () 内は 60 株/坪植え時の 1 株当たり茎数の目安

③ 今後の水管理について

幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理を行いましょう。また、冷害危険期となる幼穂形成期 10～15 日後（出穂期 15～10 日前）に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため、「深水管理」を行いましょう。

④ カメムシ類の防除

出穂期前後の畦畔の草刈りは、カメムシ類を水田の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂の 2 週間前頃までに刈り取り、出穂後は、収穫まで雑草が出穂しないように草刈りしましょう。今年はイネクロカメムシの発生が多く見られます。発生が多く見られるほ場はカメムシ類に登録がある殺虫剤の散布をしましょう。

⑤ 主要病害の防除

いもち病

止葉などの上位葉に病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。

紋枯病

茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。飼料用米品種でも発生がみられるので注意しましょう。

⑥ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、胞子が飛び、周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、埋却処理するなどの対応について、ご協力をお願いします。

※ 次号は「6月30日頃」発行予定